

SPH10 気圧取入れ口 取扱説明書



- 気圧測定における風による影響を効果的に除きます
- 各種の気圧計と接続可能、ヴァイサラ気圧計 PTB210 ならば直接接続
- 頑丈で、清掃も容易な構造

はじめに

気圧取入れ口 SPH10 は風によって引き起こされる気圧計測への影響を効果的に除きます。SPH10 は分解清掃などの保守作業も容易です。SPH10 はヴァイサラ気圧計 PTB210 に直接接続ができます。その他の気圧計へは、チューブにより接続できます。

組立て

1. 下側バーを下側プレート(6 個の穴が開いているほう)のねじ付スリーブへねじ込んでください。
2. 上側バー(取付けプレートがついているほう)を上側プレートのねじ付スリーブへねじ込んでください。

取付け

近くの物体が気圧測定に影響を及ぼさないような場所を選びます。最適な場所は、近くに建物や樹木のない開けた場所になります。SPH10 は水平アームに取付ける構造です。最適な支持アームはヴァイサラ社のセンササポート DKP12 ですが、他の水平アームでも、2 本のねじ(M6)を 41 mm の間隔で取付けられれば使用できます。

注意！ 最良の効果を発揮させるために、SPH10 と水平アームにつながる垂直ポールとの間は 1 m 以上 離すことをお勧めします。

1. 2 本の固定ねじ用いて、SPH10 を図 1 に示すようにポールへ固定します。

ヴァイサラ社 PTB210 との接続 (図 2 参照)

1. ねじ付きニップルとガスケットを外します(図 1 参照)。
2. 気圧計のグローブの中に O-リングを入れます。
3. PTB210 を SPH10 へ 2 本の固定ねじで取付けます。

その他の気圧計への接続

気圧計の測定孔とねじ付きニップル(図 1)を内径 4 mm のチューブで接続します。

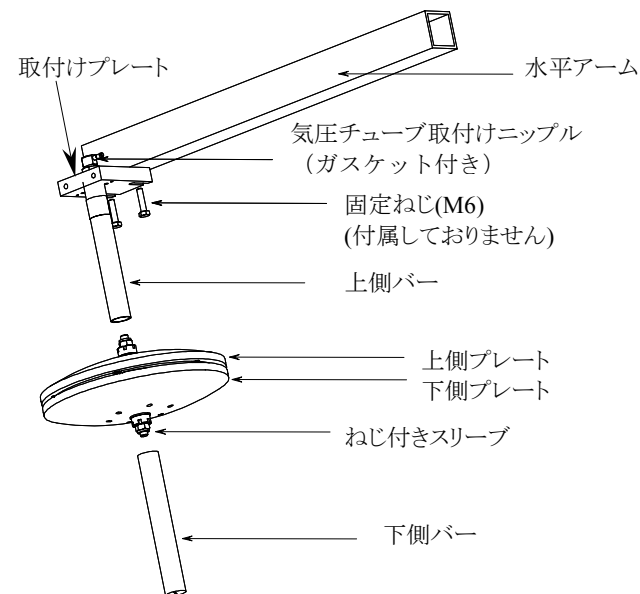


図 1. SPH10 取付け

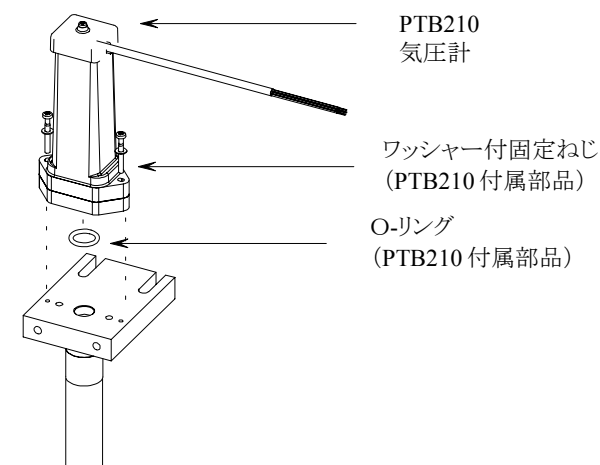


図 2. 気圧計 PTB210 の取付け

技術情報	
プロパティ	備 考
材質	
プレート	ポリカーボネート
バー	導電性アルマイト
取付け	ボルト 2 本を使用 (M6×最小 20 mm)
質量	800 g
ホース接続	内径 4 mm ホース用 タケノコ継手 または Rp1/4 メネジ (パラレル)
使用温度範囲	-60°C...+ 80°C

保 証

ヴァイサラは通常運転条件のもとで出荷日より 1 年間、製品の材質と組み上げ性能を保証いたします。仕様外の運転操作、不注意な取り扱いによる損傷は保証対象外とさせていただきます。

ヴァイサラ株式会社センサシステム部アフターセールス

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂六丁目42番地
神楽坂喜多川ビル 3F
アフターセールス直通 Tel.03-3266-9617、Fax.03-3266-9655

ヴァイサラ(株) ホームページ: <http://www.vaisala.co.jp>
E-メール: sales.japan@vaisala.com

保守作業

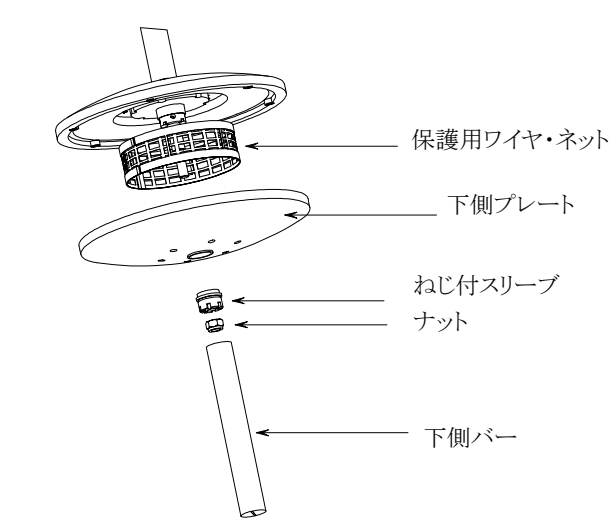


図 3. 清掃のため下側プレートを外したところ

SPH10 の清掃は下側バーと下側プレートを取外して行います。気圧計はプレートの清掃の間もそのままつけて置くことができます。以下の手順に従ってください。

- 1. 下側バーのねじを緩め、これを取外します。
- 2. 13 mm スパナによりセルフロックナットを外します。
- 3. ねじ付スリーブを外し、下側プレートと保護用ワイヤネットを取外します。
- 4. プレートの清掃を行います。
- 5. 下側プレート、保護用ワイヤネット及びねじ付スリーブを元に戻し、ネットと下側バーを締めて取付けます。

下側プレートの穴は水はけ用です。目詰りのないようにしてください。

寸法 (単位 mm)

